

東三河支部

9月例会

- 日 時：令和4年9月20日（火）午後1時
- 見学先：加山興業（株）
豊川市南千両2丁目1番地
- 出席数：37名

東三河支部（鬼頭秀幸支部長）の9月例会は研修指導委員会（洪本雅昭委員長）が、東三河支部会員である加山興業（株）の太陽光発電パネルの処理施設及び乾溜ガス化プラント等の見学会を開催し、循環型社会への対応やSDGsの取組について学びました。

当日の集合場所である加山興業（株）の駐車場で、竹内臨通夫副支部長は開会の辞を述べ、鬼頭支部長は開会の挨拶を述べ、洪本研修指導委員長が本見学会の趣旨説明を行った後、市田リサイクルプラントにて加山興業（株）の中嶋あゆみ氏からプラント内を案内していただきました。

現在、太陽光発電に使用する太陽光パネルは、製品寿命が約25～30年とされているため、FIT開始後に始まった太陽光発電事業は2040年頃には終了し、その際、太陽光発電設備から太陽光パネルを含む廃棄物が出ることが予想されています。

（経済産業省資源エネルギー庁HPより引用）

中嶋氏からは、「このような課題に対応するため、市田リサイクルプラントでは、使用済みの太陽光パネルについてブラスト工法を用いてガラスを剥離した後、独自のふるい条件でガラスとブラスト材を分離し、高精度なガラスリサイクル及びブラスト材のリユースを行っています。このようにリサイクルすることにより、埋立処分される物量の減溶化を図ることができ、さらにモジュールに含まれるアルミ、銀、ガラス、プラスチック類等をマテリアルリサイクルすることができます。」と説明を受けながら、プラント内のフレーム外し機、カバーガラス剥離装置（投射材（小さく固い）の粒を吹き付けてガラスをはがす）や、ふるい機（比重差を利用し、投射材とガラスを分ける）によって分かれたガラス、フレーム、バックパネルなどを見て回りました。

その後、『破砕選別ライン』にて処理フローの説

明を受け、1日300kgを処理する『銅ナゲット製造ライン』、貴重な資源を手作業で選別する『OA機器リサイクルライン』を見学し、一行は施設内で記念写真を撮影しました。

次に、乾溜ガス化プラント、固形燃料RPF製造ライン、リサイクルプラント等を見学し、千両リサイクルプラントにある養蜂場へ移動しました。

環境指標生物のミツバチは、『ミツバチプロジェクト』として、採取活動や容器製造に伴い排出されるCO₂をカーボンオフセットして排出量をゼロにしている。養蜂場は多数のハーブが咲き誇り、里山を思わせるような自然環境に恵まれており、参加者は養蜂場のハチミツのドリンクをいただいた後、本社前にて酒井正樹総務運営部会副部会長が謝辞を述べ、長崎正敏事業部会副部会長が閉会の辞を述べ、例会は閉会しました。



市田リサイクルプラントを見学



市田リサイクルプラント施設説明図



プラント内機器の前での説明。手前は処理される前の太陽光パネル



乾溜ガス化焼却プラントを見学



市田リサイクルプラントにて集合写真を撮影